

特集

緑茶で

ちや

茶

CHA

!

荒茶生産量は全国4位！お茶処・宮崎県

童謡「茶摘（ちやつみ）」の出だしのフレーズに『夏も近づく八十八夜』というものがあ

ります。八十八夜とは、立春から88日後の5月初旬頃のこと、八十八夜の夜に摘んだ茶葉は、珍重されてきたそうです。実際は、産地の温暖差によって、茶摘みの時期は異なります。宮崎県のお茶は、「宮崎茶」または「日向茶」とされ、山間部に自生していたヤマチャを利用して造られてきたものと、都城地方に宇治や静岡から導入されたものが、明治以降県下に広まったと言われています。



南国の宮崎県ですが、実はお茶の主産県であり、平成26年の荒茶生産量は静岡県、鹿児島県、三重県に次いで全国4位です。

その中で新富町は、3つの法人を含む16戸の茶農家があり、県内栽培面積4位、荒茶生産量6位と、県内有数のお茶処と言えます。

特に、その品質は優良であり、平成26年開催の第68回全国茶品評会（蒸し製玉緑茶の部）で産地賞を受賞しました。

- 第68回全国茶品評会宮崎大会
- 農林水産大臣賞（蒸し製玉緑茶）
- (株)新緑園 代表取締役 黒木信吾氏
- 農林水産省生産局長賞（蒸し製玉緑茶）
- 羽澤純吾氏（新緑園所属）
- 産地賞
- 宮崎県新富町

※株新緑園及び羽澤氏は、昨年度の静岡大会で2連覇を達成されています。

平成26年産茶摘採面積及び荒茶生産量



お茶の豆知識

荒茶とは？

茶園から摘みとった生葉を、蒸気で加熱し乾燥したもので、まだ精製していないお茶をいいます。

発酵で変わるお茶の種類

同じ茶の葉でも、発酵時間によって緑茶・ウーロン茶・紅茶になります。ただし、それぞれの茶に適した品種はあるようです。



宮崎県で生まれた品種

さらに31、ゆめかおり、みやまかおりなど。宮崎県総合農業試験場では、常に新品种の研究が行われています。

(参考文献)
『日本茶のすべてがわかる本』
著者・編集: 日本茶インストラクター協会、日本茶検定委員会
発行: 農山漁村文化協会
『茶の絵本』 著者: 増澤武雄、山福アケミ
発行: 農山漁村文化協会